

市長と語ろう！

タウンミーティング

人口減少対策などで意見交換

市では、まちづくりや行政課題について、市民と市長が語り合う「市長と語ろう！タウンミーティング」を8月1日から5日にかけて4地区で開催しました。人口減少対策などについて、市民の皆さんから様々な意見や提言を伺いましたので、その概要をお知らせします。



▲津谷市長と意見を交わしたタウンミーティング（鷹巣会場）

「市長と語ろう！タウンミーティング」は、これまで旧町ごとで行われていた「移動行政懇話会」の内容や名称を見直し、市民に市政をより身近に感じてもらえるように、市民と市長が直接対話することを重視した意見交換会。「人口減少対策」子育て世代・若者をはじめ、みんなが暮らしやすいまちづくりのために「をテーマに、本市が取り組んでいる事業などについて意見や提言などを聴き、今後のまちづくりに反映させるために行いました。8月1日の阿仁地区を皮切りに4地区で行われ、市民88人が参加しました。

最初の会場となった阿仁ふるさと文化センターでは、開会にあたり津谷市長が「北秋田市誕生から12年間で人口が約7000人減少している。今後は、市政運営の指針に『人口減

少時代への挑戦』を掲げ、本市が将来自立した市として存続していくために『北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略』を策定し、活力ある元気な北秋田市の維持のために様々な取り組みを進めている。皆さんと一緒に北秋田の未来を考えたい」などあいさつしました。

続いて、市の各部から人口減少対策に係る取り組みを説明し、参加者の意見交換が行われました。

阿仁地区（8月1日／阿仁ふるさと文化センター）

◆結婚新生活支援補助金は、若者に周知されているか。若者を支援する制度をもっとPRすべきではないか。結婚新生活支援事業は、今年度始めたばかり。各団体と連携を取り、より広めていけるよう取り組みたい。

◆合川小学校で行われている教育留学を、大阿仁小学校でも受け入れることはできないか。

大阿仁小学校での教育留学は、宿泊施設とスタッフをどうするかがポイント。できないことではないので、今後検討していきたい。

◆阿仁は熊が多いが、有害駆除をするハンターが高齢化で減少している。

狩猟免許を取得して、有害駆除に従事する公務員を養成できないか。公務員が仕事を続ける中で狩猟免許を取得することは可能。市には獣医師の免許を持つ職員もいる。専門性を持つ人が働けるよう考えていきたい。

◆大雨などの災害が起きた時、土日や夜間は、どこに連絡すればいいか。災害が発生したときは、職員が庁舎に出てきて対応する。ただし、職員が間に合わない場合もあるので、緊急の場合は各地区の消防署に連絡してもらいたい。

合川地区（8月2日／合川農村環境改善センター）

◆働く場所がないと、人口減少に歯止めがかからない。市外からIT・AI企業や優良企業の誘致にチャレンジしたらどうか。

働く場所があっても、求人と求職がマッチングしないという問題がある。大野台工業団地に進出している企業には、一部上場企業とつながりがあり、全世界に製品を供給している素晴らしい企業がたくさんあるが、求人をかけても人が集まらない現状がある。企業には、喜んで働いてもらえるように、賃金も含めて就業環境を整えてほしいと要望している。行政としても手助けを考えたい。

◆国立市とのまと火を通した交流をきっかけにして、国立市の大学などとの交流の輪を広げてほしい。

国立市からは「もっと幅広い交流ができるよう提携ができないか」という提案もある。現在は、災害時の応援協定を結んでいるが、今後は友好都市協定の締結に向けて、さらに交流の輪を広げていきたい。

◆人口減少対策は、人づくりだと思っている。長い時間をかけて、地元に残って頑張る人材をいかに育成するかを考えなくてはいけない。子どものときから、地元の良さをわかってもらう教育が必要ではないか。

小中学校では、子どもたちが、将来どのぐらい地元で貢献できる人材に成長することができかを学校経営の指標としている。子どもたちには、都会での成功事例だけではなく、地元で頑張っている人の声を聞かせるなど、地元の良さを分ってもらえるような取り組みを進めたい。

森吉地区（8月3日／森吉コミュニティセンター）

◆以前に出会い創出イベントを実施していたが、参加すること自体に抵抗があるとよく耳にする。また、県外や市外から当市に来てもらうためには、実際に移住したときの生活面の支援も必要ではないか。



▲市民からの質問の様子（森吉会場）

以前にも出会い創出の企画をしたが、マスコミが多く参加者にあまりいい印象を与えることができなかった。今後は、参加者に配慮して工夫した企画を検討していきたい。市でも生活面の支援は必要と考えている。

◆移住・定住者からすると冬の雪寄せなど、生活面で不安なことがあると思う。移住定住を促進するにあたって、生活面の不安や負担を軽減できるような対策を。

移住・定住者の負担を軽減する対策は今後検討していく。移住定住者だけでなく、市民の方々も住みやすいと感じるまちづくりに励んでいく。

◆若者が県外へ出ていく大きな理由は、地元で就職先がないからと考える。市でも企業誘致等を頑張っていると思うが、近況を教えてほしい。県の東京事務所に職員を配置して

活動をしているが、今のところ新たな企業誘致はない。地元企業では事業拡大のため、求人を募集しているが、なかなか人が集まらない。地元高校からは、進学や公務員志望が多いと聞く。地元で仕事がありながら、マッチングしていない現状がある。福利厚生も含めて、働きやすい就業環境を整えていく必要がある。

鷹巣地区（8月5日／市民ふれあいプラザ）

◆30年後、40年後のことを、ここに参加している高齢者で考えてもどうなのかと思う。もっと若い世代の参加が必要。高齢者と若者が意見を交わしてアイデアを出すなど、市民同士の意見交換や議論があってもいい。もっと斬新なアイデアを出せるよう、若い世代を呼び込む工夫や仕組みを考えるべきではないか。

今年から内容や名称を見直したが、どの会場も若い方の参加が少ない。市が取り組んでいる人口減少対策事業に対して「もっとこのようにしたらどうか」「これで効果があるのか」など、市民の方々とテーマを絞ったワークショップのような、意見を交わす進め方ができないか検討したい。

◆初めて参加した。今回は人口減少、子育て世代、若者という自分たちに関係があるテーマだったので、もっ

と同世代の人たちが参加していると思ってきた。広報やホームページで開催の告知は見ていたが、もう少し若い人への誘いを絞ったPRができれば、もっと参加者が増えたと思う。

市としても、タウンミーティングの開催の仕方や意見交換の進め方については、今回のことを反省材料として、次回に向けて内容を検討していきたい。

◆大規模な災害が起きて避難する場合を想定し、地域ごとにどのような対応を取るべきかを、あらかじめ周知する必要があるのではないかと。昨年、全世帯に配布した防災マップには、地震や大雨など災害の種類によって、各地域に指定された避難場所が記載されている。ふだんから家族で確認をしてもらいたい。

◆高齢者の1人世帯や高齢者同士の2人世帯が多い。高齢化社会を迎えて、どのような影響が起きてるか調査をしているか。

地域包括ケアシステムの構築に向けて、様々な会議やワークショップなどを開催し、皆さんから意見を聴いたり、アンケート調査を行っている。その中で大きな影響や問題は、買い物や通院する際に外出する手段がないことと、除雪のことだと考えている。